

平成22年度に建設工事で発生した事件事例（建設機械による事故）

事故概要：

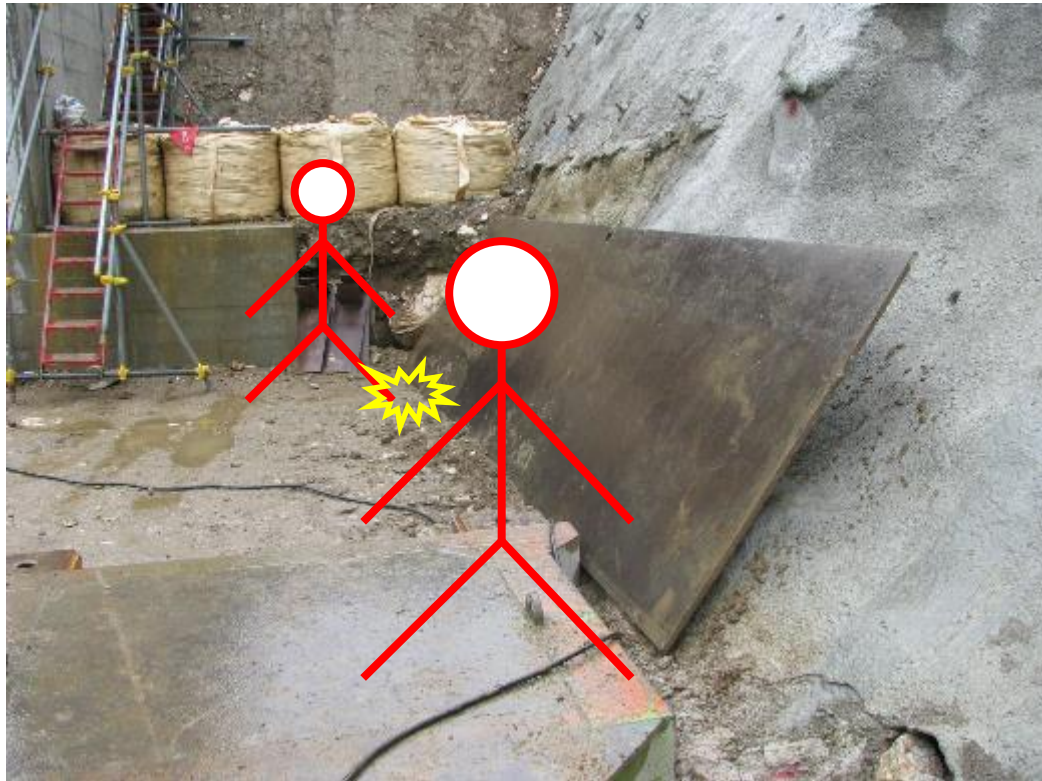
移動式クレーンで敷き鉄板を移動させ、床掘法面にもたせかける状態で設置していたところ、敷き鉄板を基面に置いた際に下流側法面を滑る形でずり落ち、作業員の左足の上に敷き鉄板が乗り、足を負傷した。

事故原因：

- ・敷き鉄板の滑り止め処置を実施していなかった
- ・作業員の立ち入り禁止場所を明確にしていなかった

改善対策：

- ・滑り止め措置の徹底
- ・作業場所、立入禁止場所の決定及び周知の徹底



分類：仮設工、クレーン吊

被害状況：60日間の安静加療（左中足骨骨折）

平成27年度に建設工事で発生した事件事例（挟み込みによる事故）

事故概要：

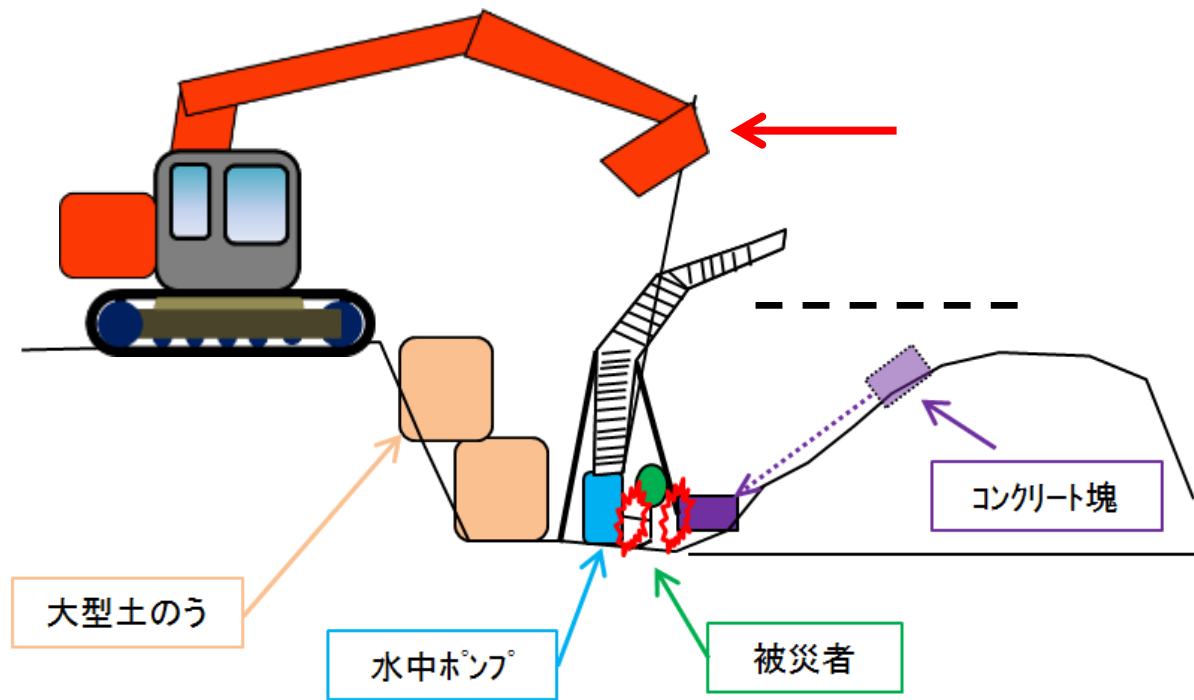
バックホウにて水中ポンプを吊った状態で移動中、作業員がホース固定用のトラロープが垂れていたため拾おうと下へ降りる際、ホースをワイヤーロープで連結していたコンクリート塊が動きだし、水中ポンプと落下したコンクリート塊の間に挟まれ負傷した

事故原因：

- ・コンクリート塊が不安定なものかつ不安定な場所に設置していた
- ・コンクリート塊は重く動かないだろうと判断し、ロープ固定を解除せず移動させた

改善対策：

- ・ロープ固定は岩盤に削孔して鉄筋を設置する
- ・移動方法を作業手順書に定め周知させる



分類：仮設工、クレーン吊

被害状況：全治一か月（骨盤骨折他）

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（流出による事故）

【事故概要】

河川締切を行うため、バックホウで大型土のうを敷き並べていたところ、バックホウ支持地盤が不安定であったため、バックホウが転倒。燃料（軽油）が河川に流出した。

【事故原因】

- ・玉石などの不安定な足場状況で作業を行っていた
- ・支持地盤の状況が水面下で視認できない状況であった

【改善対策】

- ・支持地盤の水平堅土を確保する
- ・支持地盤の状態が視認できるよう水面上に構築
- ・定格総荷重に余裕をもった機械選定



【分類】仮設工・クレーン吊

【被害状況】軽油流出(少量)

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

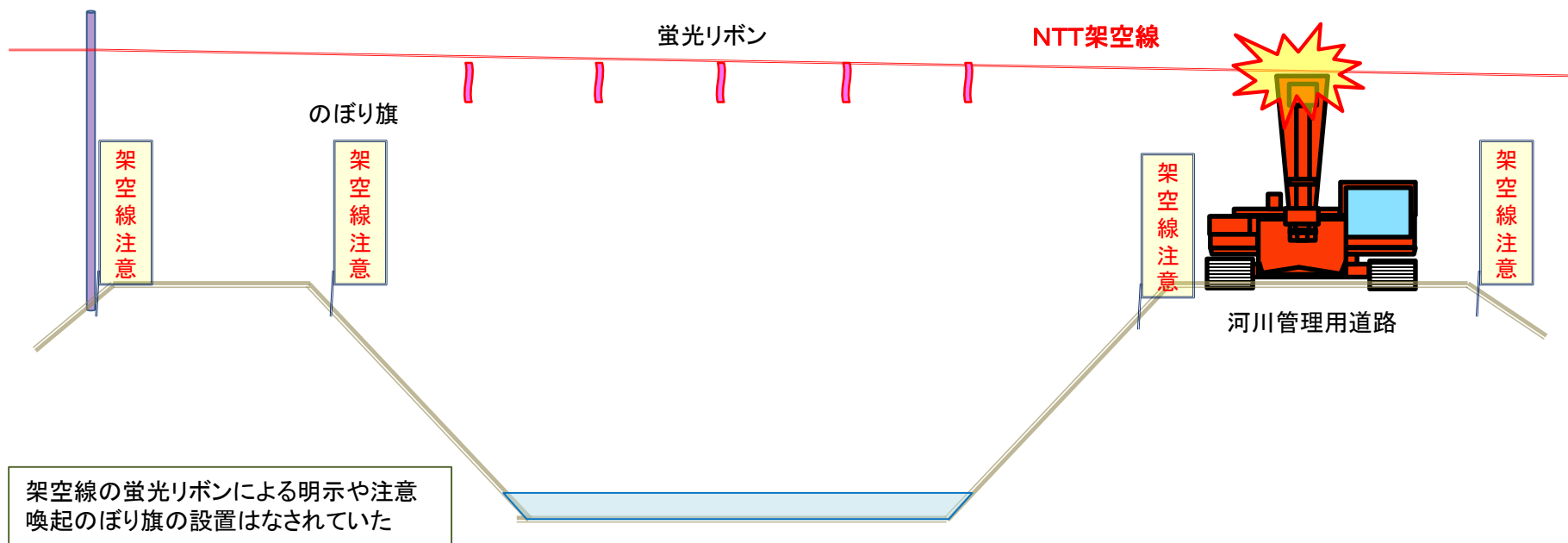
水中ポンプの引上げ作業を行うため、河川管理道を走行していたバックホウのアームでNTT架空線を引掛け、ワイヤーを切断した。

【事故原因】

- ・架空線の存在は認識されていたが、同日発生した現場内事故の対応後で、認識が疎かとなっていた
- ・見張員が配置されていなかった

【改善対策】

- ・架空線下は、立入禁止区域としてバリケードで囲む
- ・架空線下での重機作業及び通過時には、バリケードを外し、見張員の配置を徹底する



【分類】 仮設工、クレーン吊

【被害状況】 NTT架空線損傷（メッセンジャーワイヤー切断、通信障害なし）

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械による事故）

【事故概要】

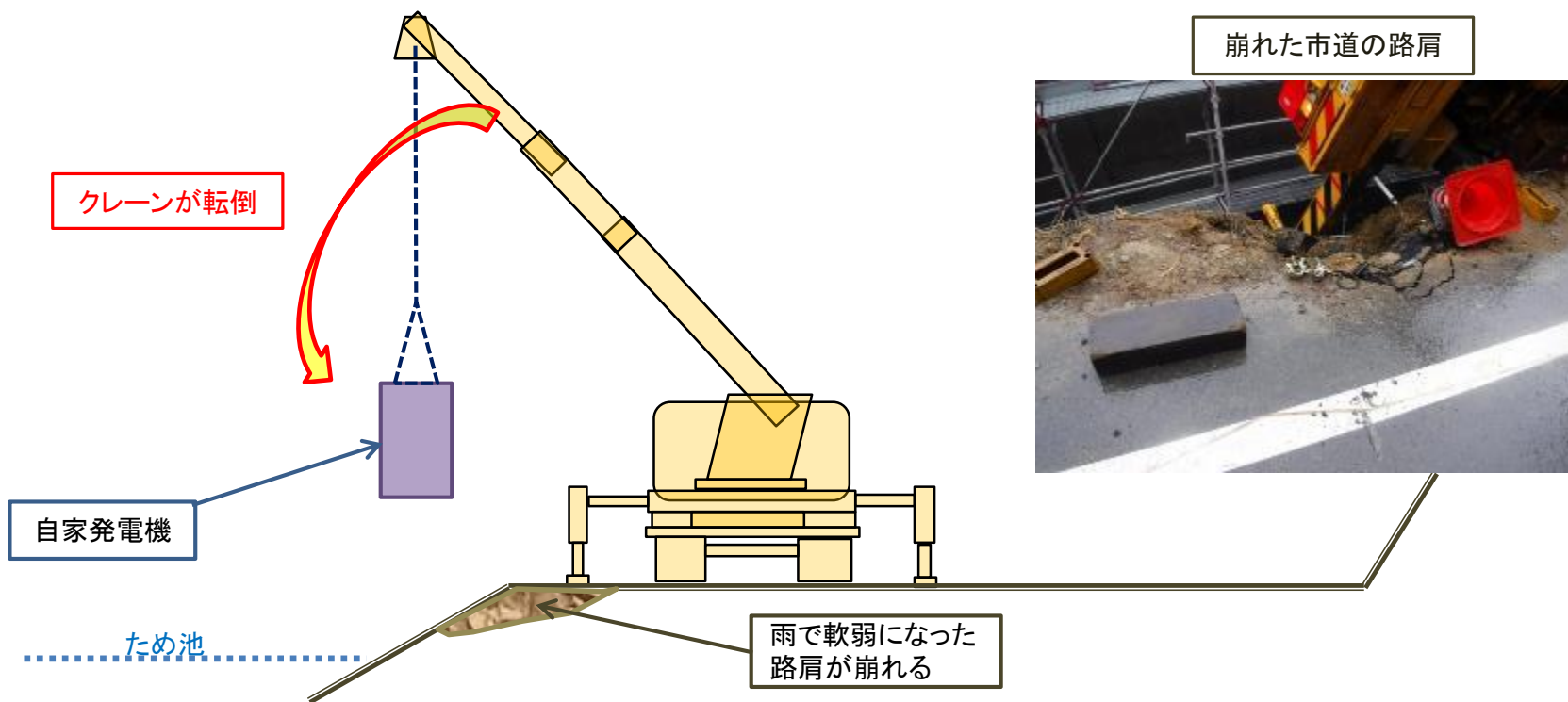
ため池に隣接する市道にクレーン(4.9t吊)を設置し、自家発電機の撤去及び洪水吐工の足場の解体撤去を行おうとしていた。市道横に仮置きしてあった自家発電機(1.2t)を吊り上げようとしたところ、左後側のアウトリガーの路肩が崩れ、クレーンが池側に転倒した。

【事故原因】

- ・当日は雨模様で路肩部が軟弱となっていたにもかかわらず、地盤状態を十分に確認しなかった
- ・市道の全面通行止めを避けるため、クレーンを片側車線で設置しようとした

【改善対策】

- ・クレーンを設置する際、足元の地盤確認を行い、アウトリガー接地面が十分な強度を得られるよう配置計画を立て、必要に応じて全面通行止めの措置を取る
- ・合図マンとは別に監視員を配置する
- ・地切り後に一旦停止して、吊荷及び地盤の状況を監視し、作業中に変状があれば作業を中止する



【分類】 仮設工、クレーン吊

【被害状況】 クレーンが横転(運転手に怪我無し) 市道の路肩・舗装の一部が損傷

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（転倒事故）

【事故概要】

送水管埋設工事現場において、簡易土留引抜作業中に、待機していた被災者が、土留に付着した土砂を取り除くため、簡易土留に駆け寄った際に、土留と車道の隙間(窪地)に足をとられ転倒し、右足を骨折した。

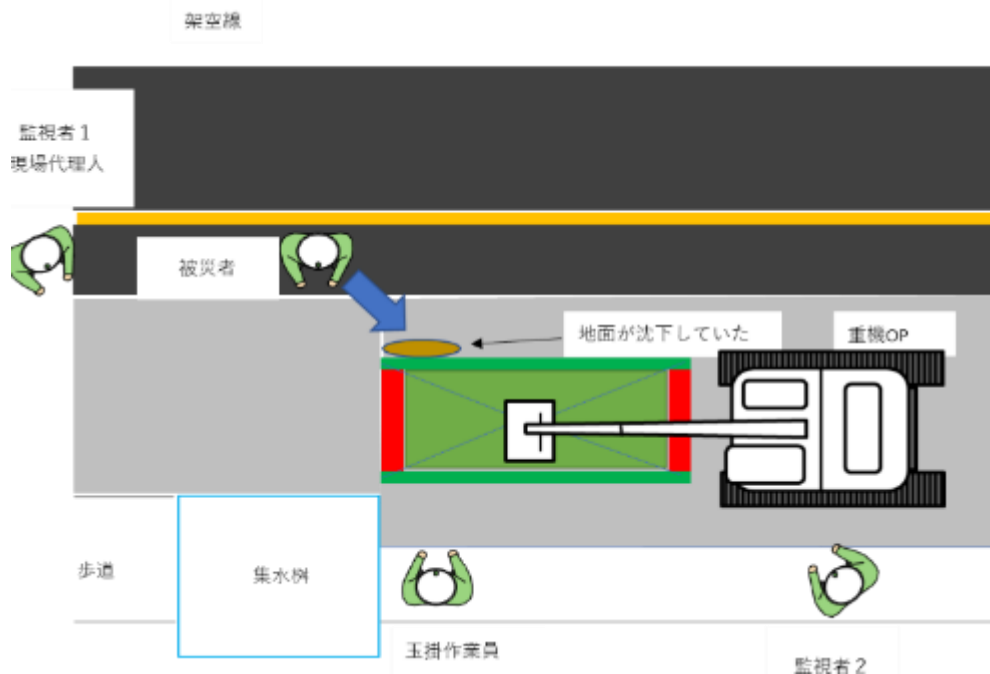
【事故原因】

- ・月1回の安全訓練や朝礼時のKY活動などで、土留引抜作業中は接近しないことと教育していた。しかし、被災者は不用意に土留に駆け寄った。
- ・土留に付着した土砂に気を取られていたため、足元の窪みに気が付かなかった。

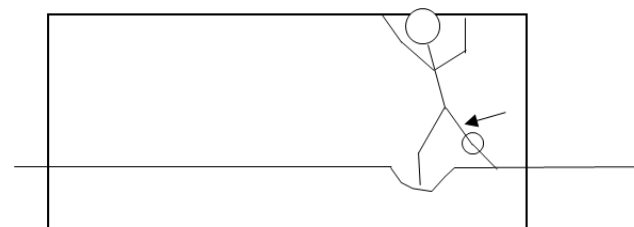
【改善対策】

- ・引抜作業中は、土留に接近しないことを徹底する。
- ・作業員の怪我や体調不良については、最悪の事態を想定のうえ経過を把握し、報告が遅延しないようにする。
- ・臨時の安全教育を実施し、作業員の安全意識向上及び連絡体制の徹底を図る。

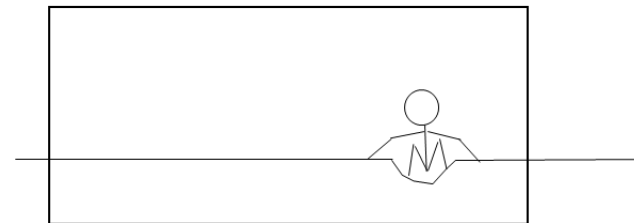
事故現場概略図



事故現場状況図



左足が窪地にはまった際に、右ひざが伸びきった状態で力がかった。



しゃがみ込むように転倒した。

【分類】 仮設工、クレーン吊り

【被害状況】 業者自身 1名 右脛骨PCL付着部骨折(全治2ヶ月)